

授業科目名	看護学概論(2300201)		
時間割名	看護学概論(35201)		
時間割担当	中馬成子		
実施期	前期	単位数	2 必修
曜日・時限	水・5		

授業の目標・概要

看護学の主要概念である人間、健康、環境、看護について理解し、広い視野からの看護活動について学ぶ。対象を全人的に捉えるための基礎的な知識を養うとともに、看護の機能と役割、看護活動を展開する場、看護の対象となる人々の健康と病気、生活、ライフサイクルなどについて学ぶ。看護の歴史の変遷、看護学教育の変遷を踏まえてヘルスケアチームにおける看護の位置づけ、チーム医療における看護の役割について理解する。さらに、看護活動を展開するための法的基盤、看護実践のための理論的根拠、倫理、看護を提供するプロセスについて理解する。

学習の到達目標

1. 看護への関心を高め、看護学の基盤となる主要概念を理解することができる。
2. 看護活動の専門性とその理論的根拠について理解することができる。
3. 看護活動展開のための法的根拠と看護における倫理の重要性について理解することができる。
4. 看護の歴史の変遷、看護教育の変遷、理解し、今後の展望について考えることができる。
5. 保健・医療・福祉システムとしてのチーム医療における看護の役割について理解し、今後の課題について考えることができる。

授業方法・形式

講義

授業計画

1. ガイダンス、看護とは、看護学を学ぶ意義と大学における学習方法について
2. 看護の対象としての理解(1) 人間とは 人間のニードについて
3. 看護の対象としての理解(2) 人間と健康、環境との関係
4. 看護の対象としての理解(3) 人間と病気 病者としての心理、行動
5. 看護の対象としての理解(4) 生活者としての個人と家族、地域
6. ライフサイクルと発達課題 ライフサイクルと健康・病気
7. 看護の構造と機能(1) 看護活動の専門性「日常生活行動の支援」「診療の補助」
8. 看護実践の基盤となる思考過程 クリティカルシンキング
9. 看護活動を展開するための法的基盤 医療安全
10. 看護における倫理と価値(日常倫理、価値の対立、倫理原則)
11. 看護を提供するためのプロセス(看護過程)
12. 看護の歴史の変遷
13. 看護学教育の変遷 看護における教育課程と今後の展望
14. 保健・医療・福祉システム 保健医療福祉サービスの場とチーム医療における看護の役割
15. 看護研究 新たな知の創造プロセスと看護の展望、まとめ

成績評価の基準

定期試験70%、レポート20%、課題提出状況と授業への参加状況10%で評価する

準備学習・復習及び授業時間外の課題

シラバスを熟読し、主体的に学習して初めて理解可能となる。各看護学の基盤となる科目であるので、既習内容を整理し計画的にレポートを作成する。

予習については、授業の後に課題として提示する。各自で学習ノートを準備し、授業後の整理と関連する内容について調べ理解を深める。

履修上のアドバイス及び留意点

抽象的な内容であるため、授業中にもよく考え、自らに問いかけながら、参考図書を読むなど主体的に参加する。また、自分を含む家族や地域の人々の健康を創りだす看護学の第一歩であることを忘れずに、自分の意見を他者に伝えられる力を育む。

教材・教科書

茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野1 看護学概論 医学書院
 Florence Nightingale著/湯楨ます・薄井坦子訳：看護覚え書、現代社
 Virginia Henderson/湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの(最新装版) 日本看護協会出版会
 日本看護協会監修：新版 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理 日本館協会出版会

参考書

参考書については講義の中で適宜紹介する。